

クラス	QA301	担当教員	清源 友香奈
テーマ	体験の心理臨床学的検討—語りを通して		
著書・論文 研究課題等	<p>著書：「第二章 和太鼓演奏における身体の体験—皮感覚・運感覚・深部感覚の心理臨床学的有用性」『日本の心理療法 身体編』新曜社 2017</p> <p>『理解と体験をつなぐパラパラ絵本』誠信書房 2017</p> <p>論文：自他との「関係」を切り離してきた20代前半女性との心理療法過程—生きたつながりを取り戻す契機として機能する関わり の検討— 箱庭療法学研究 32-1 2019</p> <p>表現過程における体性感覚の心理臨床学的意義—和太鼓演奏者の体験の語りを通して— 心理臨床学研究 29-6 2012</p> <p>研究課題：表現過程における体験についての心理臨床学的検討</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード： 体験、表現、自他との関わり、つながり、臨床心理学			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>これまで「研究とか難しそう」「卒論なんて何書いたら良いか分からない」といったことを言ってくる学生さんがいました。けれど、話を聞いていると、その学生さんも自分なりに興味のあるものがあったり、心動かされる時を経験していたりしていました。卒論は、難しいことをただただ難しく書くようなものではなく、自分が興味のあるものや、この時自分の心でどういうことが起こっていたのだろうといったことに関心を寄せて、自分なりに探求して、自分の中で納得出来る形で軸を通した考えを、他の人にも理解できる形で文章にしてみるのだと思います。</p> <p>このゼミではまず、三年次の前半で、自分の考えや感じていることを言語化することや、いくつかのワークの体験などを通して、自分はどんなことに関心があるのかをじっくり見つけてもらいたいと思います。三年次後半では、自分の関心のあるテーマに関連する論文を要約して発表、卒業論文の序論（問題と目的）を書く下準備を進めてもらいます。</p> <p>四年次前半では、序論を書き進めるのに並行して、必要に応じてゼミ生同士でのインタビュー調査の練習、夏休みが終わるまでにデータ収集、逐語起こし、四年次後半で分析、考察を書くくらいのペースを目標に、進めていく予定です。</p> <p>私が、表現芸術療法、箱庭療法、体験過程療法を専門としていますので、三年次前半のワークは、心の内奥にあるものに何らかの形を与えるような過程、非言語、イメージなどを重んじたものになるかと思っています。基本的に三年次と四年次前半は、ゼミ生同士の関わり（ワークや発表を通して感じたことや考えたことを伝え合う時間など取ります）を重視して、四年次後半では、必要に応じて論文執筆の個別対応も行う予定です。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>卒論には是非主体的に取り組んでください。こちらはその過程で行き詰ったときなどに、お手伝いをするような形と思ってください。</p> <p>テーマは特に指定しませんが、私の専門は、表現芸術療法、箱庭療法、体験過程療法になります。イメージ、夢分析、自他との関わり、交差なども最近の研究のキーワードになってきています。</p> <p>インタビュー調査、事例的検討と、質的研究ばかりしている人間です。ゼミの進め方も、インタビュー調査を想定して、練習時間なども設けたいと考えています。過去に私のゼミで、統計を使って論文を書いた方もいますので、授業でやり方を理解しているから自分でやれるよという方は問題ないかと思いますが、SPSSの使い方や、統計の手取り足取りの細やかな指導をご希望の方は、期待に応えられないと思いますので、予めご了承ください。</p> <p>色々書きましたが、心をフル稼働して、一緒に深め合っていける時間になればと思っています。じっくり探求していきましょう。</p>			